

横浜市インフルエンザ流行情報 10号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

報告数は減少していますが、依然として警報発令中です。

【概況】

2019年第6週(2月4日～10日)の定点^{※1}あたりの患者報告数は、横浜市全体で **27.16** となり、前週の 47.87^{※2} から減少していますが、依然として報告数が多い状態が続いています。

同様に、学級閉鎖等も第6週は67施設となり、前週の157施設^{※2} から減少していますが、依然として小学校を中心に報告が続いています。保育園での集団発生の報告も続いており、お子さんがいるご家庭での感染予防が重要です。

また、病院や高齢者施設等での集団発生も報告されています。各施設での持ち込み防止や感染拡大防止対策を徹底しましょう。

入院患者は小児と高齢者で多く、重症肺炎や脳炎が疑われる患者の報告も続いており、インフルエンザ脳症疑いの患者も報告されています。

今シーズンの第6週までの迅速診断キットの結果は、累計でA型99.7%、B型0.3%と、A型が多く検出されています。市内のウイルス分離・検出状況は、2018年はAH1pdm型が多く検出されてきましたが、現在ではAH3型の割合が多くを占めています。

インフルエンザが本格的に流行しており、正しい手洗い^{※3}等の予防、咳が出る時のマスクの着用及び早期受診などの対策^{※4}が重要です。

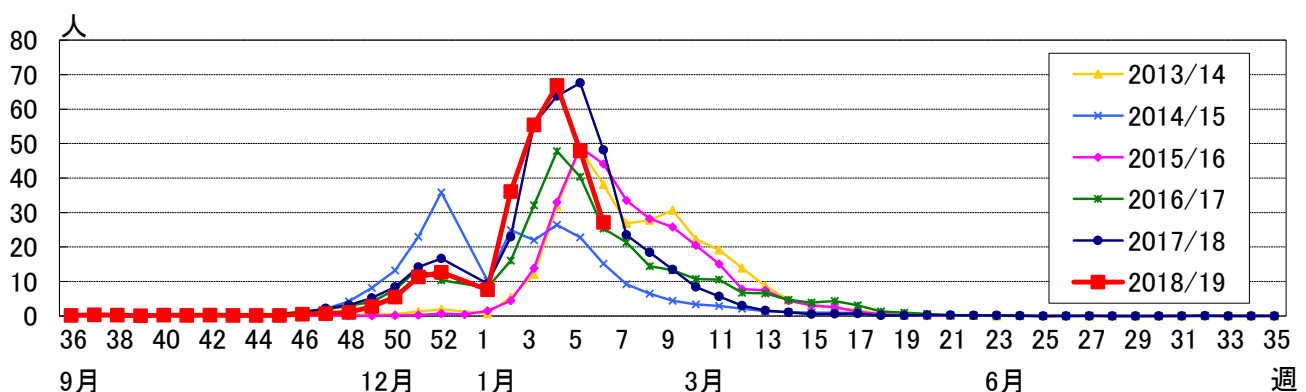
※1 定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内153か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

※2 追加報告があったため、以前お知らせした情報から報告数が更新されています。

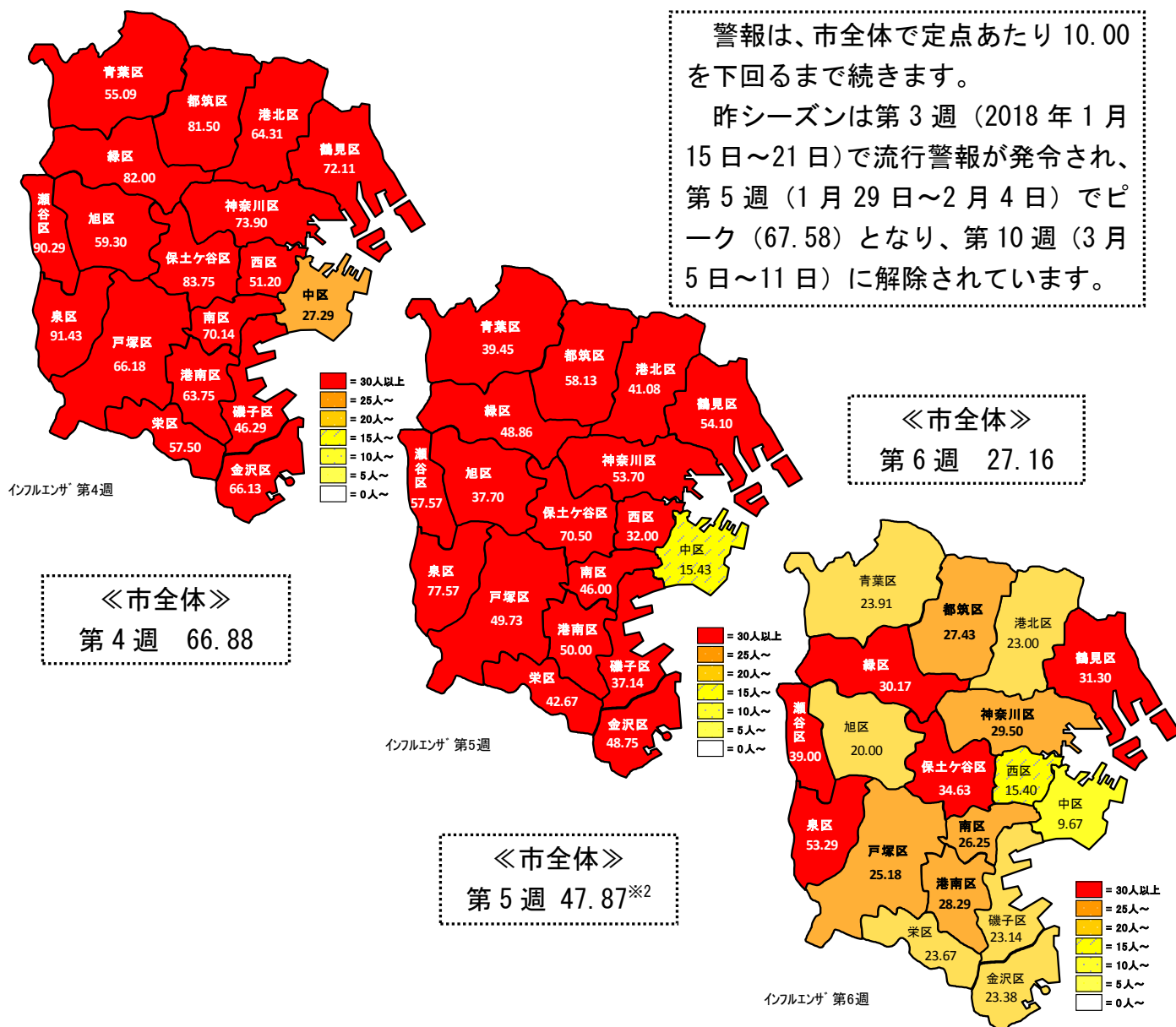
※3 [横浜市保健所ホームページ](#)(「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」、チラシ「咳エチケット」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください)

※4 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は、第6週(2月4日～10日)で27.16となり、第4週(1月21日～27日)の66.88、第5週(1月28日～2月3日)の47.87^{※2} から減少しましたが、依然として報告数が多い状態が続いています。

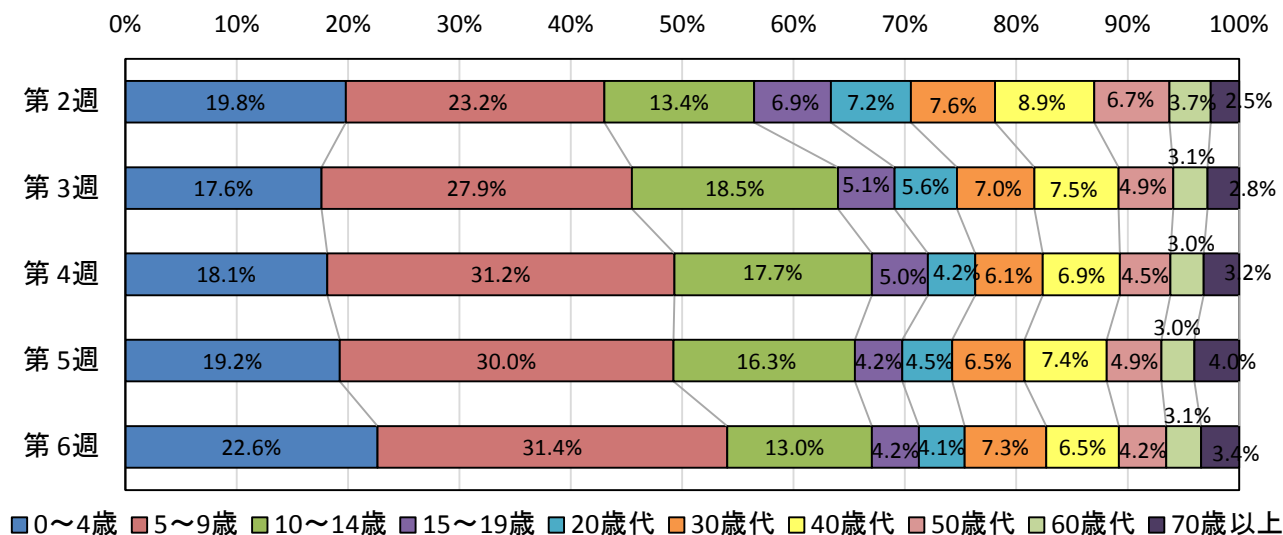


2 地図で表した直近 3 週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

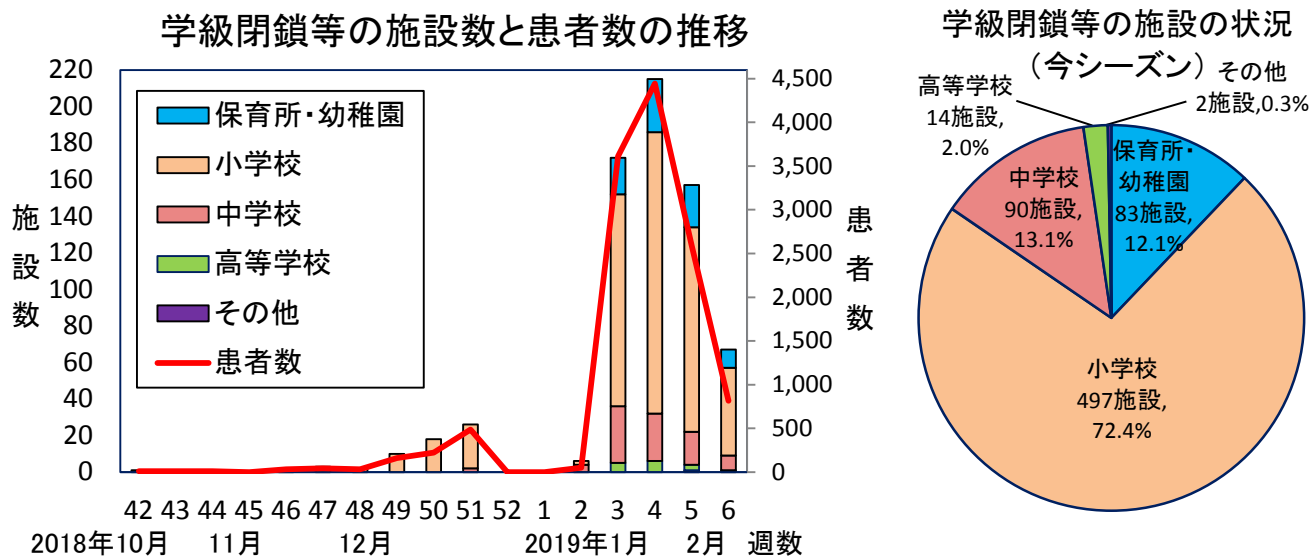


3 年齢層別集計:第 6 週の患者年齢構成は、5 歳未満が 22.6%、5 歳から 10 歳未満が 31.4%、10 歳から 15 歳未満が 13.0%となっており、10 歳未満が全体の 54.1%、15 歳未満が全体の 67.0%を占めています。

年齢層別患者割合

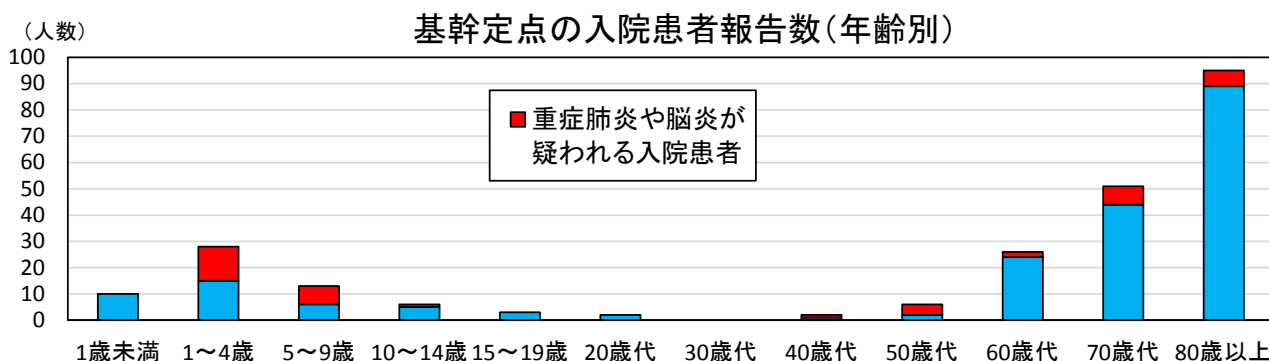
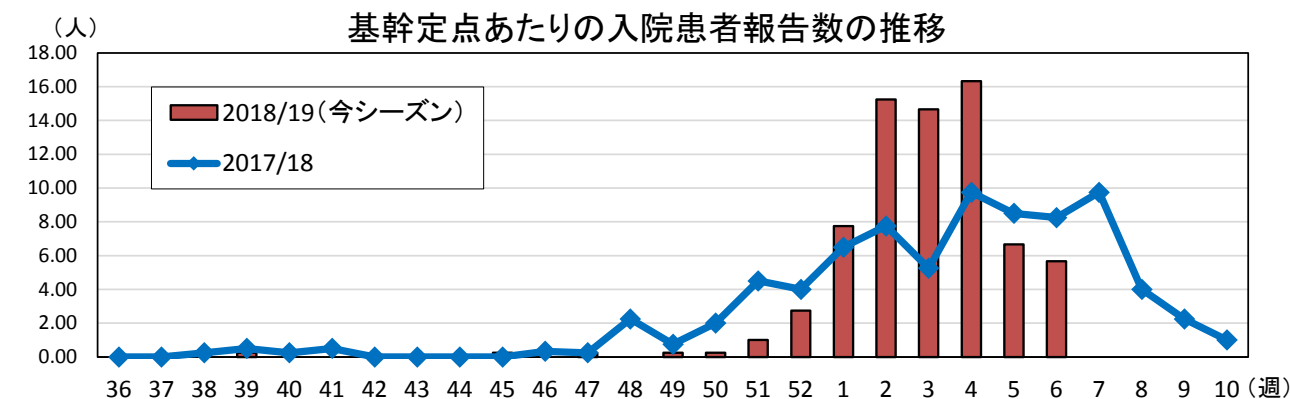


4 市内学級閉鎖等状況:学級閉鎖等は、第6週で67施設(保育所・幼稚園10施設、小学校48施設、中学校8施設、その他1施設)、報告された患者数は817人となり、前週の157施設^{※2}、患者数2,593人^{※2}から大幅に減少していますが、依然として小学校を中心に報告が続いています。今シーズンの報告は累計686施設、患者数は累計12,571人となっています。



5 入院サーベイランス:市内基幹定点医療機関^{※5}あたりのインフルエンザ入院患者報告数は、第6週で5.67となり、前週の6.67より減少しました。入院時の診療内容が把握されている事例で、ICU入室、人工呼吸器の使用、頭部CT検査、脳波検査等が実施された重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者は、第6週で4人の報告があり、累計41人となりました。

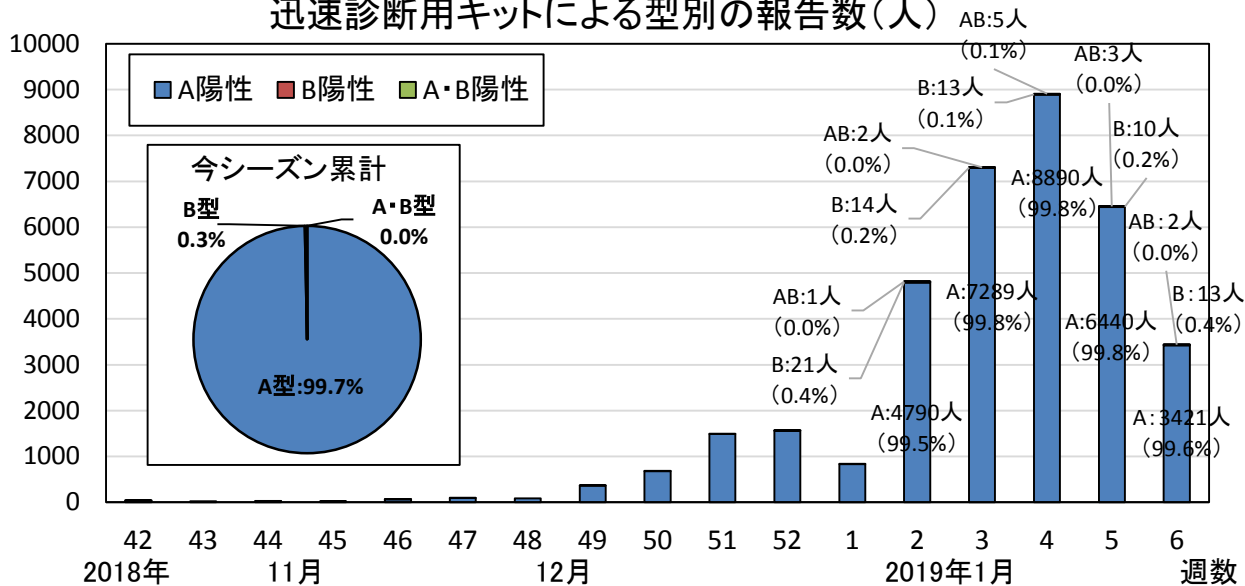
※5 基幹定点:患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。



6 インフルエンザ脳症:インフルエンザ脳症疑いの10歳未満の報告が、前号から2月13日までに1件ありました。市内での報告は今シーズンで累計8件(10歳未満7件、40歳代1件)となっています。

7 迅速キット結果:第6週の迅速キットの結果は、A型99.6%、B型0.4%、A・B型ともに陽性0.0%で、A型が多く検出されています。今シーズン累計では、A型99.7%、B型0.3%、A・B型ともに陽性0.0%となっています。今シーズンは依然としてA型がほとんどを占めています。

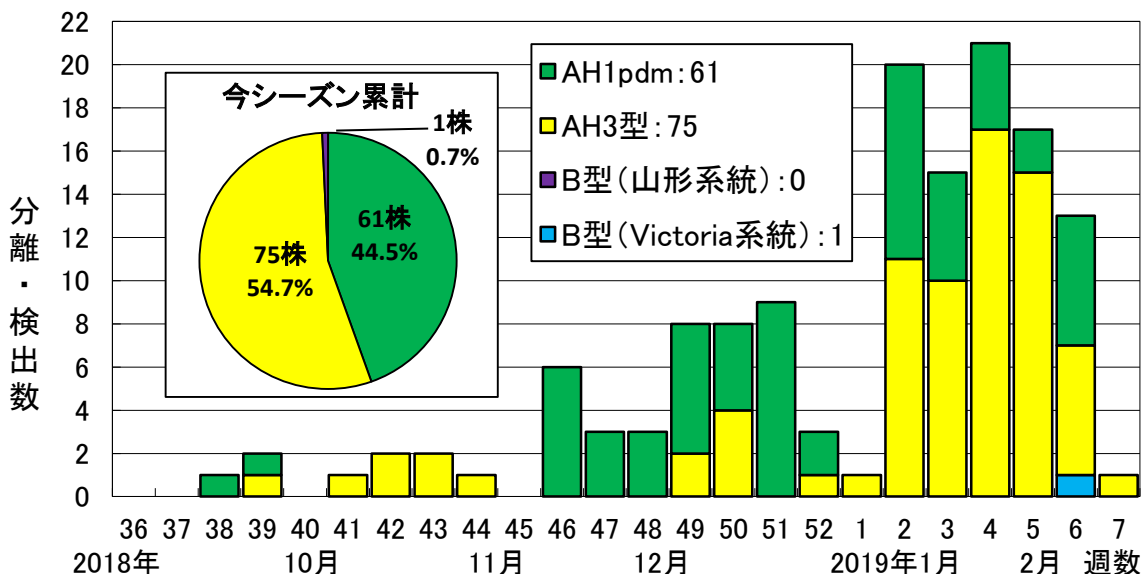
横浜市の患者定点医療機関における
迅速診断用キットによる型別の報告数(人)



8 市内病原体検出状況:市内では病原体定点^{※6}からAH1pdm型(61株)、AH3型(75株)、B型(1株)が分離・検出されています。2018年はAH1pdm型が多く分離・検出されていましたが、現在はAH3型の割合が多くを占めています。第6週でB型(ビクトリア系統)が今シーズンで初めて分離・検出されています。

※6 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に17か所あります。うち、インフルエンザについては12か所にて採取されています。
(参考)[インフルエンザウイルス分離・検出報告数\(国立感染症研究所、2019年2月13日作成\)](#)

市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況
(2019年2月13日現在)



※参考リンク 近隣自治体の流行状況 ○神奈川県 ○川崎市 ○東京都
全国の流行状況 ○国立感染症研究所

【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237
横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2445